（東京横濱毎日新聞）　（本號六頁）　明治廿三年七月二十四日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千七百二十五號
明治廿三年七月廿四日　木曜日
舊暦庚寅六月八日（丙午）
（西暦一千八百九十年）

日出午前四時四十三分　入午後六時五十二分
月出午前十一時二分　入午後十時十四分
潮午前九時十四分　午後九時零五分

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價還密料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送付スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行一付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

コロムブス萬國大博覽會

明治二十六年即ち西歴千八百九十三年はコロムブス亞米利加發見四百年期に相當するを以て米國人は萬國大博覽會をシカゴ府に開きて其紀念を表せんとするの計畫ありと云ふ我日本國にては國交上幷に商賣上に於て米國と緣故の深きふと他に其比を見ざるが故に官民共に心を盡して今より豫め其準備を講するふと最も必要なる可し抑も國交上に於て日米兩國の親親は今更喋々するを要せず其商賣上に於ては實に我得意場にして生絲、茶等の物產は勿論、我美術工藝品にして年々米國へ輸出するもの其額決して少しと爲さず蓋し歐洲文明國は美術の傳來自から素あり其各部府の美術館に入り又その寺院宮闕を歴觀すれば繪畫、彫刻、裝飾織物或は希臘の古物を存し或は羅馬の舊風を逐ひ好古の心ある者は何れも之れに親炙して其妙を解し其味を愛し之を珍重すると年久しければ今日本の美術品を見て之れに敬服する中にも歐洲工藝的の眼を以て之を取捨折衷するのみならず彼等は何れも餘裕ありて專心工風を怠らず他の妙所を見るときは接骨脱髓引て其圈套に入れんとするが故に我日本の美術品を歐洲博覽會などに出品すれば徒に其意匠を窃まれて却て後の得意客を得ず日本は美術に秀でたり云々の虛名を博するのみにして商賣上より云ふときは半文錢の報酬をも得ざるの場合なきに非ず之を稱して得策と云ふ可らざれども米國の如きは剛ち然らず建國年新しくして事多く人少く人々金錢に忙しきに加へて此人々は多くは歐洲下流社會より流れ出でたる移住民なれば美術工藝等に就ては初めより何の嗜みもなく金の次第に餘るに隨ひ衣服、飲食、装飾諸器具、次第に華美なるを好むと雖ども先入の主と爲るものなきが故に眼中希臘なく羅馬なく唯目新らしきことを悦んで之を需要せんとする折柄、日本美術品の緻密なる富み其意匠の新奇にして變化の限りなきを見て之を買取するの念を生じ扨てみろ米國各地にて今日我美術品の流行を致したるなれ面して特に此流行を促したるは先年米國費府に於て萬國大博覽會を開きたる時費用より之れに出品して當時大に好評判を得たるとは是れかも知れて此大博覽會後は華府、紐育、ボストン、ボルチモア等を始め米國東部海岸に於ける先開繁盛の諸都府にて大に日本品の需要を增し之を一種の時好として衣服裝飾、家具、器皿總て其意匠を導きたるは米國人の家内に入りて一見直に之を知るふとを待べし然るに米國東部地方は年々その人口を增し勞力に餘剩を生ずるに隨ひ其勞力を用ふる所も益々微細に入り來りて從來他國の製品を買ひたるものが今は自から之を模造し若くは更に工風を加へて内に自から之を製作するの道を開き今後此地方に於て我工藝品の需要を增すは甚だ六ケしかる可しと雖ども シカゴ以西桑港に至るまでは何れも新開必盛の地にして沃野千里遺利は手に唾して拾ふべく富源は臂を伸べて拓くべく事多く人少なくして人々金儲に忙はしきが故に彼の美術裝飾品の如き總べて他の供給を仰ぎて自から之を製作せず素封家所在に崛起するに隨ひ俄か大盡の癖として互に其豪奢を競ふは是れ亦自然の勢にして彼等が博覽會などの媒介に因り一朝日本品を愛翫するの端を開きたらば其購買力の强大なるふと殆んど測り知る可らず天晴れ日本の得意客として我工藝品の貿易上に一大刺激を與ふるふとならん然るに明治二十六年シカゴ府にて萬國大博覽會を開かんとするは我國に取りて無上の仕合、ふの機決して空うす可らず凡を美術工藝品は旦夕にして製す可らざるもの多く佳品逸物十分丹精を籠めんとするには二三年の歲月を要す可きが故に我政府は近々第三回内國勸業博覽會の開場と共に夫れ〳〵出品者に向て明後年米國博覽會に出品するの利害を示し今より十分の用意あらんふと工藝奬勵に熱心なる我博覽會事務官の當に勉ひべき所ならん將た又出品奬勵に既き當局者の須く注意すべきものは其出品の趣向をして直に商賣主義に據らしめ此主義を實行するに毫も差支なからしむるふと是れなり昨年中我國より國藝花卉を巴里博覽會に陳列したる者が來觀人の隨意にて茶代を置き去るものあらば之を受けて可なるやと我出張事務官に問ひ合せたるに茶代ふと取りては國辱なりとて之を差止めたりと云へと國藝術其他家居衣服舞踏音樂等の如き我諸工藝を示さんとするに商賣的の考を離れて好事家の奮發心のみに任ずるときは人の資力に限りありて事の完全を期す可らず寧ろ商賣流に事を起して彼の錢を取りながら成る可く損耗を大にして彼等の滿足を得るに若かず錢に當りて臆病なるは我日本人の習癖なれども米國の如き商賣國に至りて餘り拘義に遠慮して其肝心なる出品に不十分なる厭ありては二重の損失を蒙るのみならず偶々彼れ商賣國人の一笑を買ふ可きのみ我國は明治二十六年の米國大博覽會に我出品の盛んならんとを斯して今より當局者の熟考を乞ふものあり

官報

〇博覽會出品審査規概中訂正　去る二十一日の本欄に掲げたる第三回内國勸業博覽會出品審査規概中第五部第四十五行「此審査の如キハ」より第四十九行「羅馬形天秤ナリト」までは左の如く訂正すと官報に見へたり

此等器具ノ如キハ特ニ正且ツ確カナル物價高低ノ至ラハ確ニ之ヲ平ヒテ己ノ面レテ世上實價ノ狀況ヲ觀ルニ物價ノ高低ヲ測ルニ秤量ヲ以テ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ

シ是レ本邦人カ慶應年間上ニ於ケル知識未タ周密ナラサルニアラスヤ顧ヲ知ルモ已ムヲ得ス之ヲ用フルカ如キ場合ナキニアラス此カタメ最モ顧慮ナルモノヲ選ハントセハ權衡ニアリテハ東京府出品ノ羅馬形天秤ノ如キ稍々其代用ニ適スルナルヘシ

〇海軍省告示第二十一號

今般呉鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工一名佐世保鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工二名試驗ノ上採用ス志願ノ者ハ左ノ規則ニ依リ來ル月月十五日マテニ海軍大臣官房ニ願出ツヘシ（規則文略ス）

海軍大臣子爵樺山資紀

〇遞信省告示第四十七號

奉城國東白川郡植田郵便局來八月一日ヨリ坂ノ下郵便局ト改稱ス

遞信大臣伯爵後藤象二郎

〇東京府告示第五十號

明治二十三年七月二十三日

東京市構改正事業ノ內水道ノ設計左ノ通定メラル

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ百五十萬ト做シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ以テ標準トス

淨水工場ヲ南豊島郡千駄谷村ニ置キ從來ノ水源ヲ用ヒテ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水質ヲ纏淨ニス

沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容ルヽ爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ見ル場合ニ於テハ之ヲ增設スルモノトス但沈澄法ハ沈澄池ノ一邊ニ於テ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ混濁甚シキ場合ニ於テハ十二時間之ヲ靜止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ每二十四時間十尺ト爲シ面積六萬平方尺ノモノ十二箇ヲ設ケ內二箇ヲ豫備ニ充ツ尚他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ增設スルモノトス

導面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水區域ニ分チ淨水工場內ニ喞筒機及ヒ淨水池ヲ備ヘテ高地ノ給水工場トシ又淨水工場ヨリ自然流下法ニテ水ヲ麻布及ヒ小石川近傍ノ二箇所ニ分送シ此ニ淨水池及ヒ喞筒機ヲ備ヘテ低地ノ給水工場トス

給水工場ニ二箇所ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

喞筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其內一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス

其機械力ハ總計千五百馬力ナリ但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ常度トス

高地區域ニ於テハ千駄ケ谷村給水工場ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ三十六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷、赤坂、麻布ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、太塚、神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於テ濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ麻布ノ淨水貯池ニ一ハ小石川近傍ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ淨水貯池ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋、京橋、下谷、淺草、本所、深川ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、本郷、神田區ノ一部ニ配水ス此區域ニ於ケル本管ハ西郷四十二吋乃至十二吋トス

本管ノ延長ハ凡ソ合計三百五十哩

給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區畫ニ之ヲ設ケ水ノ漏泄及ヒ其消費量ノ量ノ裝置ヲナスモノトス但引用者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ

火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニテ合計四千四百五十箇其他消火兼其用栓七十箇公園及ヒ街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設クルモノトス

以上ノ沈澄池、濾水池、淨水池等ノ位置圖筏消火栓、共用栓ノ數及ヒ本支管ノ位置、六吋以下ノ管ハ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

〇東京市告示第五十一號

本年告示第三十四號芝區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第四十六號芝區一級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後六時ヨリ午後六時マテトス

本年告示第三十六號下谷區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷南稔荷町九十八番地龍泉寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十四號下谷區二級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十七號及第四十號一級撰出下谷區會議員二名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後三時ヨリ午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十五號及第四十一號三級撰出深川區會議員二名ノ補闕撰擧會ハ深川豐岡八幡宮境內第二番地淨心寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十三號撰出深川區會議員一名ノ補闕撰擧會ハ深川豐岡町十八番地淨心寺ニ於テ之ヲ開ク投票ハ出時限ハ本月三十一日午前十時ヨリ午前十一時マテトス

明治二十三年七月二十三日

〇東京市告示第五十二號

市會議員及區會議員撰擧ノ投票ヲ撰出ストキハ撰擧人ハ撰擧人名簿ニ實印ヲ押スヘシ

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

〇學生遞擧　本月十二日帝國大學ニ於テハ左ノ法科大學ヲ生徒數ノ減不御會ノ所爲アリシヲ以テ遞擧ヲ命ジタリ（文部省）

法科大學法律學科第一部第一年生　市川米三郎　同　龜田寅　同　田沼鎮三郎

〇臭太子殿下　去る二十一日午前六時三十分御滯在夫人よりよし

〇度量衡條例　此條例は其後十數年の間に改正を加へたるが故に今日の度量衡實況に適せざるもの多く成るべく早く之れを改正せんとの上調査を遂ぐるべしといふ

〇遞羅大臣の本願寺派の生徒　今般我國天主教の漫游せらるゝ阿毘達磨論も合せて文部大臣に唐銅佛塔を寄贈せんとの生田氏は僧侶なれども拘はらずしたる事日本に告げんが歸國せらんがの眞理を研究するに志ある所に有之候下希くは南條文雄敬具

〇板垣伯の機嫌　去る二十一日の本欄に掲げたる第三回内國勸業博覽會出品審査規概中第五部第四十五行「此審査の如キハ」より第四十九行「羅馬形天秤ナリト」までは左の如く訂正すと官報に見へたり

此等器具ノ如キハ特ニ正且ツ確カナル物價高低ノ至ラハ確ニ之ヲ平ヒテ己ノ面レテ世上實價ノ狀況ヲ觀ルニ物價ノ高低ヲ測ルニ秤量ヲ以テ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ

シ是レ本邦人カ慶應年間上ニ於ケル知識未タ周密ナラサルニアラスヤ顧ヲ知ルモ已ムヲ得ス之ヲ用フルカ如キ場合ナキニアラス此カタメ最モ顧慮ナルモノヲ選ハントセハ權衡ニアリテハ東京府出品ノ羅馬形天秤ノ如キ稍々其代用ニ適スルナルヘシ

〇海軍省告示第二十一號

今般呉鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工一名佐世保鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工二名試驗ノ上採用ス志願ノ者ハ左ノ規則ニ依リ來ル月月十五日マテニ海軍大臣官房ニ願出ツヘシ（規則文略ス）

海軍大臣子爵樺山資紀

〇遞信省告示第四十七號

奉城國東白川郡植田郵便局來八月一日ヨリ坂ノ下郵便局ト改稱ス

遞信大臣伯爵後藤象二郎

〇東京府告示第五十號

明治二十三年七月二十三日

東京市構改正事業ノ內水道ノ設計左ノ通定メラル

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ百五十萬ト做シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ以テ標準トス

淨水工場ヲ南豊島郡千駄谷村ニ置キ從來ノ水源ヲ用ヒテ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水質ヲ纏淨ニス

沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容ルヽ爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ見ル場合ニ於テハ之ヲ增設スルモノトス但沈澄法ハ沈澄池ノ一邊ニ於テ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ混濁甚シキ場合ニ於テハ十二時間之ヲ靜止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ每二十四時間十尺ト爲シ面積六萬平方尺ノモノ十二箇ヲ設ケ內二箇ヲ豫備ニ充ツ尚他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ增設スルモノトス

導面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水區域ニ分チ淨水工場內ニ喞筒機及ヒ淨水池ヲ備ヘテ高地ノ給水工場トシ又淨水工場ヨリ自然流下法ニテ水ヲ麻布及ヒ小石川近傍ノ二箇所ニ分送シ此ニ淨水池及ヒ喞筒機ヲ備ヘテ低地ノ給水工場トス

給水工場ニ二箇所ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

喞筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其內一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス

其機械力ハ總計千五百馬力ナリ但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ常度トス

高地區域ニ於テハ千駄ケ谷村給水工場ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ三十六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷、赤坂、麻布ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、太塚、神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於テ濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ麻布ノ淨水貯池ニ一ハ小石川近傍ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ淨水貯池ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋、京橋、下谷、淺草、本所、深川ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、本郷、神田區ノ一部ニ配水ス此區域ニ於ケル本管ハ西郷四十二吋乃至十二吋トス

本管ノ延長ハ凡ソ合計三百五十哩

給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區畫ニ之ヲ設ケ水ノ漏泄及ヒ其消費量ノ量ノ裝置ヲナスモノトス但引用者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ

火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニテ合計四千四百五十箇其他消火兼其用栓七十箇公園及ヒ街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設クルモノトス

以上ノ沈澄池、濾水池、淨水池等ノ位置圖筏消火栓、共用栓ノ數及ヒ本支管ノ位置、六吋以下ノ管ハ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

〇東京市告示第五十一號

本年告示第三十四號芝區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第四十六號芝區一級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後六時ヨリ午後六時マテトス

本年告示第三十六號下谷區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷南稔荷町九十八番地龍泉寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十四號下谷區二級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十七號及第四十號一級撰出下谷區會議員二名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後三時ヨリ午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十五號及第四十一號三級撰出深川區會議員二名ノ補闕撰擧會ハ深川豐岡八幡宮境內第二番地淨心寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十三號撰出深川區會議員一名ノ補闕撰擧會ハ深川豐岡町十八番地淨心寺ニ於テ之ヲ開ク投票ハ出時限ハ本月三十一日午前十時ヨリ午前十一時マテトス

明治二十三年七月二十三日

〇東京市告示第五十二號

市會議員及區會議員撰擧ノ投票ヲ撰出ストキハ撰擧人ハ撰擧人名簿ニ實印ヲ押スヘシ

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

〇學生遞擧　本月十二日帝國大學ニ於テハ左ノ法科大學ヲ生徒數ノ減不御會ノ所爲アリシヲ以テ遞擧ヲ命ジタリ（文部省）

法科大學法律學科第一部第一年生　市川米三郎　同　龜田寅　同　田沼鎮三郎

〇度量衡條例　此條例は其後十數年の間に改正を加へたるが故に今日の度量衡實況に適せざるもの多く成るべく早く之れを改正せんとの上調査を遂ぐるべしといふ

〇遞羅大臣の本願寺派の生徒　今般我國天主教の漫游せらるゝ阿毘達磨論も合せて文部大臣に唐銅佛塔を寄贈せんとの生田氏は僧侶なれども拘はらずしたる事日本に告げんが歸國せらんがの眞理を研究するに志ある所に有之候下希くは南條文雄敬具

〇板垣伯の機嫌　去る二十一日の本欄に掲げたる第三回内國勸業博覽會出品審査規概中第五部第四十五行「此審査の如キハ」より第四十九行「羅馬形天秤ナリト」までは左の如く訂正すと官報に見へたり

此等器具ノ如キハ特ニ正且ツ確カナル物價高低ノ至ラハ確ニ之ヲ平ヒテ己ノ面レテ世上實價ノ狀況ヲ觀ルニ物價ノ高低ヲ測ルニ秤量ヲ以テ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ

シ是レ本邦人カ慶應年間上ニ於ケル知識未タ周密ナラサルニアラスヤ顧ヲ知ルモ已ムヲ得ス之ヲ用フルカ如キ場合ナキニアラス此カタメ最モ顧慮ナルモノヲ選ハントセハ權衡ニアリテハ東京府出品ノ羅馬形天秤ノ如キ稍々其代用ニ適スルナルヘシ

〇海軍省告示第二十一號

今般呉鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工一名佐世保鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工二名試驗ノ上採用ス志願ノ者ハ左ノ規則ニ依リ來ル月月十五日マテニ海軍大臣官房ニ願出ツヘシ（規則文略ス）

海軍大臣子爵樺山資紀

〇遞信省告示第四十七號

奉城國東白川郡植田郵便局來八月一日ヨリ坂ノ下郵便局ト改稱ス

遞信大臣伯爵後藤象二郎

〇東京府告示第五十號

明治二十三年七月二十三日

東京市構改正事業ノ內水道ノ設計左ノ通定メラル

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ百五十萬ト做シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ以テ標準トス

淨水工場ヲ南豊島郡千駄谷村ニ置キ從來ノ水源ヲ用ヒテ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水質ヲ纏淨ニス

沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容ルヽ爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ見ル場合ニ於テハ之ヲ增設スルモノトス但沈澄法ハ沈澄池ノ一邊ニ於テ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ混濁甚シキ場合ニ於テハ十二時間之ヲ靜止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ每二十四時間十尺ト爲シ面積六萬平方尺ノモノ十二箇ヲ設ケ內二箇ヲ豫備ニ充ツ尚他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ增設スルモノトス

導面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水區域ニ分チ淨水工場內ニ喞筒機及ヒ淨水池ヲ備ヘテ高地ノ給水工場トシ又淨水工場ヨリ自然流下法ニテ水ヲ麻布及ヒ小石川近傍ノ二箇所ニ分送シ此ニ淨水池及ヒ喞筒機ヲ備ヘテ低地ノ給水工場トス

給水工場ニ二箇所ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

喞筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其內一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス

其機械力ハ總計千五百馬力ナリ但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ常度トス

高地區域ニ於テハ千駄ケ谷村給水工場ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ三十六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷、赤坂、麻布ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、太塚、神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於テ濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ麻布ノ淨水貯池ニ一ハ小石川近傍ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ淨水貯池ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋、京橋、下谷、淺草、本所、深川ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、本郷、神田區ノ一部ニ配水ス此區域ニ於ケル本管ハ西郷四十二吋乃至十二吋トス

本管ノ延長ハ凡ソ合計三百五十哩

給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區畫ニ之ヲ設ケ水ノ漏泄及ヒ其消費量ノ量ノ裝置ヲナスモノトス但引用者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ

火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニテ合計四千四百五十箇其他消火兼其用栓七十箇公園及ヒ街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設クルモノトス

以上ノ沈澄池、濾水池、淨水池等ノ位置圖筏消火栓、共用栓ノ數及ヒ本支管ノ位置、六吋以下ノ管ハ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

〇東京市告示第五十一號

本年告示第三十四號芝區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第四十六號芝區一級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後六時ヨリ午後六時マテトス

本年告示第三十六號下谷區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷南稔荷町九十八番地龍泉寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十四號下谷區二級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十七號及第四十號一級撰出下谷區會議員二名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後三時ヨリ午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十五號及第四十一號三級撰出深川區會議員二名ノ補闕撰擧會ハ深川豐岡八幡宮境內第二番地淨心寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十三號撰出深川區會議員一名ノ補闕撰擧會ハ深川豐岡町十八番地淨心寺ニ於テ之ヲ開ク投票ハ出時限ハ本月三十一日午前十時ヨリ午前十一時マテトス

明治二十三年七月二十三日

〇東京市告示第五十二號

市會議員及區會議員撰擧ノ投票ヲ撰出ストキハ撰擧人ハ撰擧人名簿ニ實印ヲ押スヘシ

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

〇學生遞擧　本月十二日帝國大學ニ於テハ左ノ法科大學ヲ生徒數ノ減不御會ノ所爲アリシヲ以テ遞擧ヲ命ジタリ（文部省）

法科大學法律學科第一部第一年生　市川米三郎　同　龜田寅　同　田沼鎮三郎

〇度量衡條例　此條例は其後十數年の間に改正を加へたるが故に今日の度量衡實況に適せざるもの多く成るべく早く之れを改正せんとの上調査を遂ぐるべしといふ

〇遞羅大臣の本願寺派の生徒　今般我國天主教の漫游せらるゝ阿毘達磨論も合せて文部大臣に唐銅佛塔を寄贈せんとの生田氏は僧侶なれども拘はらずしたる事日本に告げんが歸國せらんがの眞理を研究するに志ある所に有之候下希くは南條文雄敬具

〇板垣伯の機嫌　去る二十一日の本欄に掲げたる第三回内國勸業博覽會出品審査規概中第五部第四十五行「此審査の如キハ」より第四十九行「羅馬形天秤ナリト」までは左の如く訂正すと官報に見へたり

此等器具ノ如キハ特ニ正且ツ確カナル物價高低ノ至ラハ確ニ之ヲ平ヒテ己ノ面レテ世上實價ノ狀況ヲ觀ルニ物價ノ高低ヲ測ルニ秤量ヲ以テ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ不完全ナリ生スル所ノ誤差ハ僅ノ

シ是レ本邦人カ慶應年間上ニ於ケル知識未タ周密ナラサルニアラスヤ顧ヲ知ルモ已ムヲ得ス之ヲ用フルカ如キ場合ナキニアラス此カタメ最モ顧慮ナルモノヲ選ハントセハ權衡ニアリテハ東京府出品ノ羅馬形天秤ノ如キ稍々其代用ニ適スルナルヘシ

〇海軍省告示第二十一號

今般呉鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工一名佐世保鎮守府ニ任用スヘキ海軍技工二名試驗ノ上採用ス志願ノ者ハ左ノ規則ニ依リ來ル月月十五日マテニ海軍大臣官房ニ願出ツヘシ（規則文略ス）

海軍大臣子爵樺山資紀

〇遞信省告示第四十七號

奉城國東白川郡植田郵便局來八月一日ヨリ坂ノ下郵便局ト改稱ス

遞信大臣伯爵後藤象二郎

〇東京府告示第五十號

明治二十三年七月二十三日

東京市構改正事業ノ內水道ノ設計左ノ通定メラル

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

明治二十三年七月二十三日　東京府知事侯爵鍋島茂昭

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ百五十萬ト做シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ以テ標準トス

淨水工場ヲ南豊島郡千駄谷村ニ置キ從來ノ水源ヲ用ヒテ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水質ヲ纏淨ニス

沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容ルヽ爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ見ル場合ニ於テハ之ヲ增設スルモノトス但沈澄法ハ沈澄池ノ一邊ニ於テ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ混濁甚シキ場合ニ於テハ十二時間之ヲ靜止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ每二十四時間十尺ト爲シ面積六萬平方尺ノモノ十二箇ヲ設ケ內二箇ヲ豫備ニ充ツ尚他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ增設スルモノトス

導面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水區域ニ分チ淨水工場內ニ喞筒機及ヒ淨水池ヲ備ヘテ高地ノ給水工場トシ又淨水工場ヨリ自然流下法ニテ水ヲ麻布及ヒ小石川近傍ノ二箇所ニ分送シ此ニ淨水池及ヒ喞筒機ヲ備ヘテ低地ノ給水工場トス

給水工場ニ二箇所ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

喞筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其內一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス

其機械力ハ總計千五百馬力ナリ但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ常度トス

高地區域ニ於テハ千駄ケ谷村給水工場ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ三十六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷、赤坂、麻布ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、太塚、神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於テ濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ麻布ノ淨水貯池ニ一ハ小石川近傍ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ淨水貯池ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋、京橋、下谷、淺草、本所、深川ノ全區及ヒ芝、麹町、牛込、小石川、本郷、神田區ノ一部ニ配水ス此區域ニ於ケル本管ハ西郷四十二吋乃至十二吋トス

本管ノ延長ハ凡ソ合計三百五十哩

給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區畫ニ之ヲ設ケ水ノ漏泄及ヒ其消費量ノ量ノ裝置ヲナスモノトス但引用者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ

火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニテ合計四千四百五十箇其他消火兼其用栓七十箇公園及ヒ街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設クルモノトス

以上ノ沈澄池、濾水池、淨水池等ノ位置圖筏消火栓、共用栓ノ數及ヒ本支管ノ位置、六吋以下ノ管ハ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

〇東京市告示第五十一號

本年告示第三十四號芝區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第四十六號芝區一級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ芝公園地彌生館ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午後六時ヨリ午後六時マテトス

本年告示第三十六號下谷區三級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷南稔荷町九十八番地龍泉寺ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十日午前七時ヨリ午前十一時マテトス

本年告示第三十四號下谷區二級撰出市會議員一名ノ補闕撰擧會ハ下谷區會議場ニ於テ之ヲ開ク投票拂出時限ハ本月三十一日午前七時